

2022 年度

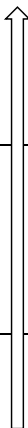
芸術 科 シラバス
(音楽)

山形県立長井高等学校

科目	音楽 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教科書 副教材等	教科書「Tutti+」(教育出版) 副教材「The Basics of Music」(教育芸術)						

目 標	①諸活動に積極的に取り組み、それらに関わる様々なことを理解するとともに、表現に必要な基本的な能力を身につけましょう。 ②諸活動を通して、よさや美しさを味わいえるようになりましょう。 ③感性を高め生涯に渡り音楽を愛好する心情と豊かな情操を育て、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養いましょう。 ④年間を通して感染症の予防に努めながら、諸活動に積極的に取り組みましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準 	ステップ 3 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
	ステップ 2 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	イメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るくしていく態度を養う。
	ステップ 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽について理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的に音楽活動に取り組む、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るくしていく態度を養う。
評価方法	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながら A, B, C の評価をし、またそれを基に 5 段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業、グループ学習を中心とします。

担当者より

通常授業では、予習・復習の必要はありません。授業では、失敗やミスを恐れず何事にも積極的に一生懸命に取り組ましましょう。分からないこと・できないことは、恥ずかしことではありません。そのままにせず、できる人やわかる人に質問してみましょう。学習内容の理解や練習が足りないと思った時や欠席してしまった時は、そのままにせず自分で補うようにしましょう。新型コロナウイルス感染症対策のため授業の進め方や計画を変更する場合があります。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	オリエンテーション 歌唱の基礎基本 楽典	前期中間Ⅰまで 10	年間の学習について 歌唱導入 (校歌、応援歌の練習も含む) 楽典の学習	・校歌と応援歌を積極的にかつ丁寧に歌えるように積極的に表現活動に取り組ましよう。3年間、そして卒業してからも歌い続けられるように暗譜しましよう。 ・歌唱時の姿勢や呼吸などについて理解し表現活動に活かすとともに、他者との調和を意識しながら積極的に歌いましよう。 ・楽典の音楽的基礎知識等についてこれまでの学びの確認をし、それらの知識や技術を表現活動に結びつけ、体験を通して理解を深めましよう。	前期中間Ⅰまで
5	器楽		楽楽演奏の基礎基本	・西洋音楽の違いを理解しながら活動を通し、日本音楽について理解を深め、表現活動に積極的に取り組みましよう。	
	筆記試験		既習事項の確認と復習 <中間試験Ⅰにて>	・既習事項を復習し、基本的知識をしっかりと身に付けましよう。	
6	器楽 様々なアンサンブルⅠ 実技テスト	前期中間Ⅱまで 8/18	楽楽合奏 レポート ヴォイスアンサンブルやリズムアンサンブルなど楽器を使用しないアンサンブル活動	・新たな奏法や効果についても理解し、意図をもって積極的に表現活動に活かしましよう。また、他者との調和を意識してアンサンブル活動で表現しましよう。 ・楽器を使用しないアンサンブル活動に積極的に取り組み、楽譜に出てくる記号を復習し理解を深めましよう。また、他者との調和を意識してアンサンブル活動で表現しましよう。	前期中間Ⅱまで ／
7・8	歌唱の基礎基本	前期期末まで 11/29	合唱コンクールまでの混成合唱やア・カベラの歌唱	・合唱コンクールへ向けた表現活動を通して、曲想やハーモニーを感じ、他者との調和を意識して楽しみながら積極的に表現しましよう。	前期期末まで ／
9	様々なアンサンブルⅡ		ヴォイスアンサンブルやリズムアンサンブルなど楽器を使用しないアンサンブル活動 実技テスト	・楽器を使用しないアンサンブル活動に積極的に取り組み、楽譜に出てくる記号を復習し理解を深めましよう。また、他者との調和を意識して創意工夫しながら表現しましよう。	
10	創作 歌唱		既習事項を踏まえた作曲 外国の音楽 実技テスト	・創作活動に積極的に取り組み、基本的な既習事項を確認しながら理解を深化させるとともに、他者との調和を意識しながらアンサンブル活動を楽しみましよう。 ・表現活動と鑑賞活動に積極的に取り組み、外国の様々な音楽について理解し、視野を広げましよう。	
11	器楽	後期中間まで 13/42	リコーダー・ギターの合奏	・器楽の表現活動に積極的に取り組み、基本的な奏法と既習事項を結び付け学習を深化させるとともに、器楽アンサンブルの楽しさを味わいましよう。	後期中間まで ／
12	様々なアンサンブルⅢ	年度末まで 19/61	実技テスト 創造的アンサンブル活動	・楽曲や編成等、様々な創意工夫を図りましよう。また、グループ毎に積極的にアンサンブル活動に計画的、かつ積極的に取り組みましよう。	年度末まで ／
1					
2・3	実技テスト		クラス発表会	・発表会を通し、表現形態の多様性を認識するとともに、鑑賞する観点を認識し音楽の良さを感じ取りましよう。	
合計時数		61			

2023 年度

芸術 科 シラバス
(美術)

山形県立長井高等学校

科目	美術 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教材	教科書「美術1」（光村図書）						

目 標	①美術の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けましょう。 ②創造的な表現を工夫したり、美術のよさや美しさを深く味わったりすることが出来るようになります。 ③生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培いましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 2 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 1 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。 ・造形的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業、グループ学習など。

担当者より

常に美的関心を持ち、積極的に鑑賞する機会を設けたり、素材・資料を収集したり、生活に生かしたりする姿勢を持つ。 授業の準備をしっかりと(必要な用具、ふさわしい服装、資料材料集め、主題設定や構想を練ってくる)。 制作にあたっては、根気よく、より良いものを追求する姿勢。 授業を休まないことと、提出物の期限の厳守(成績に大きく関わる)。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	オリエンテーション スケッチ・資料収集	前期中間Ⅰまで	高校美術の意義と心構え	鑑賞を通して、美術のよさを見つけ味わい、興味関心を高め、学ぶ意欲を持つ。	前期中間Ⅰまで
5			身近なものを描く スケッチの素材・資料収集	身近にあるものを見つめ直し、よさや美しさを感じ取り表現方法を工夫して表す。 常にスケッチしたり、表現の基となる資料・素材を集める習慣を身に付ける。	
5		9	静物デッサン 風景スケッチ	モチーフの組み方、視点と構図、基本形、鉛筆デッサンの技法、明暗、質感の表現。 空間の広がりや奥行き、光と構図、透視図法、遠近法、四季・時間・天気・心情による見え方の違い、色鉛筆彩色。	／
6		前期中間Ⅱまで	人物スケッチ コラージュ	自己や他者の内面を深く見つめる、性格・感情・自分にとっての存在・表情・ポーズ・背景・配色によるその人らしさの表現の工夫。 心の中のイメージを基に発想を広げ、想像の世界を表す。形・大きさ・質感の変化、存在し得ない空間の組み合わせ、コラージュの技法を使って超現実的な世界を表す。	前期中間Ⅱまで
6	油彩画に親しもう		主題の生成	自分が感じた思い、よさや美しさなどから主体的に主題を生成する。	
7・8		8/17	構想	表現形式の選択と創造的な表現の構想を練る。	／
9		前期期末まで	油彩の特性・扱い 表現方法の工夫 下塗り 本塗り 仕上げ塗り	油彩の特性・扱いを理解し、特性を生かした扱いに慣れる。 意図に応じた多様な表現方法を工夫する。 積極的に制作する意欲を持ち、意図的、計画的により良いものを粘り強く追求する姿勢。	前期期末まで
9			作品の鑑賞	自他の作品のよさや美しさ、制作者の心情や意図による表現の工夫を見つけ味わう。	
10	人体を通して生き生きとした生命感を表現しよう（塑造による全身像）	後期中間まで	人物クロッキー 主題の生成 構想	クロッキー（速描き）方法を理解し、技能を身に付ける。 『生命感』をどの様に捉えて、誰が 何をしているところを どのように表現するか、主体的に主題を生成する。 主題・意図に応じた人体のポーズを工夫し、立体で捉えるための資料を収集する。	後期中間まで
11			人体デッサン 芯作り	立体で捉えるため、各方向からの人体デッサンをする。 人体の構造・骨格を理解し、芯材を作る。	
12		13/41	肉付け	可塑性に優れた粘土を使い、量感、動静、バランスなど立体が持つ特性を理解し表現をする。	／
12			仕上げ 鑑賞	デスクチュアを意識し、人間の存在感、生命感、モデルの人物や感情まで表現するように、意図的計画的に根気強く制作する。 自他の作品のよさを味わう。	
1	Ⅵの展開	年度末まで 19/60	自分をブランド化し、デザインする	Ⅵについて考察し、Ⅵの重要性への理解を深める。 生活の中のⅥに興味関心を持ち、構成する要素と効果を味わう。 自分のマーク、名前のデザインをする。	年度末まで ／
2・3	美術史		美術と人間、東西の美術、19世紀以降の美術	大きな時代ごとの美術の特徴や様式、代表的な作品・作者、東洋西洋の関わりを理解し、美術文化を愛好する。	
合計時数		60			

2023 年度

芸術 科 シラバス
(書道)

山形県立長井高等学校

科目	書道	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教科書 副教材等	教科書「書道Ⅰ」（教育出版）						

目 標	①諸活動を通し、書道の様々な分野への興味を高め、基本的な知識・技術を身に付けましょう。 ②諸活動を通して書道の美しさを味わい捉えられるようになりましょう。 ③感性を高め生涯に渡り書道を愛好する心情と豊かな情操を育て、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養いましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ステップ 3 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
	ステップ 2 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の活動に取り組み、書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活していく態度を養う。
	ステップ 1 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考慮することができるようにする。	主体的に書の活動に取り組み、書を愛好する心情を育むとともに、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活していく態度を養う。
評価方法	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業です。

担当者より

通常授業では、予習・復習の必要はありません。 提出作品が大切ですので、遅れても必ず提出しましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	1. 導入	前期中間Ⅰまで 9 前期中間Ⅱまで 8/17	①オリエンテーション 書写から書道へ ②基本的な筆使いの確認	1 ・芸術としての書道の様々な分野について学習し、興味関心を高める。 ・用具等の学習。	前期中間Ⅰまで 前期中間Ⅱまで ／
5	2. 楷書		①書体の変遷と鑑賞 ②欧陽詢『九成宮醴泉銘』 ③虞世南『孔子廟堂碑』 ④顔真卿『顔氏家廟碑』 ⑤褚遂良『雁塔聖教序』 ⑥牛橛造像記 ⑦遜義鄭下碑	2 ・それぞれの古典の特徴を学習し、臨書する。 ・その後、倣書する。	
6					
7・8	3. 楷書の作品制作	前期末まで 11/28	古典の選択と制作	3 ・半切1／4の作品を制作する。 ・自分に合った古典を見つける。 →校外展に出品	前期末まで ／
9	4. 行書		精神を集中させ、細字に取り組む ①行書の基本・特徴 ②王羲之『蘭亭序』 ③顔真卿『争坐位稿』 ④空海『風信帖』 ⑤その他の行書	4 ・行書の筆使いを徹底した上で、作品製作をめざし学習する。 ・臨書の後、倣書する。 ・これまで書き溜めた折半紙制作品を全国展に応募する。	
10	5. 写経 6. 篆刻		自分の雅印制作	6 ・簡単な篆書の学習後、自分の印稿を考える。→（デザイン性）	
11		後期中間まで 13/41			後期中間まで ／
12	7. 隷書 8. 仮名 9. 実用書	年度末まで 19/60	『曹全碑』を主に 仮名の鑑賞と臨書 葉書の書き方、他	7 - 9 ・様々な文字の存在を知る。 ・仮名の地歴史と基本を学んだ上で、ちらし書きまで。	年度末まで ／
1	10. 作品製作 11. まとめ		古典臨書 自由創作	10 ・自分の筆力に合った古典を選択する。 →校外展に出品（来年度）	
2・3					
合計時数		60			